

くまもと復旧・復興有識者会議 ～熊本地震からの創造的な復興の実現に向けた提言

- ① 熊本地震の経験を教訓とし、今後の災害に活かす必要。
- ② 被害の実情や復旧・復興の過程で得たノウハウ、教訓等をしっかりと記録に残し、整理・蓄積し、後世に遺していく必要。
- ③ 幼児・児童・生徒等が学習できる震災ミュージアムや防災センターの設立が望ましい。

熊本地震震災ミュージアムのあり方検討

○ 熊本地震の経験や教訓を後世に確実に伝えるにあたり、極めて有効と考えられる震災遺構の保存や活用方法など、県としての震災ミュージアムのあり方を検討

熊本県が果たすべき役割

- ◎ 熊本地震の経験や教訓を学び、風化させず確実に後世に伝承する
- ◎ 今後の大規模自然災害に向けた防災対応の強化を図る
- ◎ 熊本の自然特性を学び、改めて自然を畏れ、郷土を愛する心を育む

背景

◆ 明治22年熊本地震など過去の大規模な自然災害も、時間の経過とともに記憶は風化し忘れ去られてきた。

『平成28年熊本地震』の風化を防ぎ、永く伝承するには……

震災遺構等の保存・活用が極めて有効

震災遺構等の保存・活用

1. 定義（有形・無形）

- ◇ 断層や被災建物、自然の遺物や人工構造物、建築物等
- ◇ 揺れや被害の大きさ、避難生活の難しさなどを表現し、熊本地震を想起させるもの
- ◇ 原状回復を前提としているが、熊本地震からの復旧・復興の過程が確認できる構造物・建築物等
- ◇ その他、熊本地震の記憶等を伝えうるもの（有形・無形） など

2. 価値

- ◇ 歴史的・学術的価値 …… 希少性、発信力 など
- ◇ 教育的価値 …… メッセージ性、教訓 など
- ◇ 社会的価値 …… 注目度、集客力 など
- ◇ 追悼、鎮魂

3. 保存方法

- ◇ ありのままの自然な状態で現地に保存
- ◇ 部分的な保存や劣化対策を施しての保存
- ◇ 移設保存
- ◇ ICT技術を活用した疑似的保存
- ◇ 複数の手法の組み合わせによる保存

【参考】市町村が検討を行っている主な震災遺構等の候補の例

- ◆ 益城町 布田川断層（杉堂、福原、堂園）
- ◆ 西原村 応急仮設住宅、断層地域
- ◆ 南阿蘇村 東海大学阿蘇キャンパス、阿蘇大橋

熊本地震の経験や教訓を確実に伝承

熊本地震の特徴を活かす！

- 熊本地震の特徴
- (1) 二度にわたる震度7の激震
 - (2) 長く続く大きな余震の発生
 - (3) 約30kmにわたる地表地震断層の出現
 - (4) 県民生活への多大な影響

広範囲に点在する震災遺構等を活かす！

『熊本地震震災ミュージアム』

～ 進化し続ける震災ミュージアム ～

- ・各地域の震災ミュージアムが徐々に完成・オープン
- ・終わることなく進化・充実

- 自然の「豊かさ」と「驚異」を学び、正しく畏れること、自然災害との共存の歴史を伝える場
- 災害の教訓を国内外に発信し、今後起こりうる様々な災害にも寄与する場
- 地域が復旧・復興していくプロセスなどを発信する場
- 県内外の旅行者等が訪れ、熊本を深く知る地域振興、観光振興の場
- 追悼・鎮魂の場

構成要素

各市町村が、目的をもって後世に遺したいと考え、る全ての震災遺構等

形式

～ 回廊型 ～

広範囲に点在する震災遺構や学習のための拠点を連携させ、巡る仕組

テーマの設定

広域的な視点からのテーマを明確にし、テーマに沿った震災遺構等で回廊を構成

拠点

県や市町村が掲げるテーマごとに拠点が必要 ⇒熊本市内、益城町、西原村、南阿蘇村にあることが望ましい

運営・役割等

- 既存施設の活用、持続可能なコンパクトな仕様など将来負担の軽減を優先
- 「地域との協働」による運営
- 県・市町村の密接な関係による協議の実施
- 長期的にわたる安定的な運営を図るための、行政機関からの財政的支援

【広域的視点で捉えたテーマ・拠点例】

【例1】

繰り返される自然災害の歴史や復旧・復興の姿、今後の備え・防災を学習する。
＜拠点例＞ 防災関連施設

【例2】

自然災害との共生、自然の脅威を体感・実感する。
＜拠点例＞ 東海大学阿蘇キャンパス 等